

張翼負荷

自由の翼を張り、そこに生じる責任の重みは背負おうではないか

令和5年度 7月号
中津川市立神坂中学校
学校だより

目標を掲げ、努力し続けること

校長 吉田 知己

6月9日に前期中間テスト(5教科)を行いました。定期テストの結果はもちろん成績に関わりますが、前後期末、学年末に示される成績は、定期テストの結果だけで決まるものではありません。毎日の授業や課題への取り組み状況、提出物など、様々な要素を総合的に評価した結果が成績となります。



中学校の学習は、全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするために、文部科学省が定めた「学習指導要領」をもとに進められます。学習の目標や内容、授業時間数の基準などが定められています。この学習指導要領はおよそ10年ごとに見直しがされ、現在は令和3年度から全国の中学校で全面実施されている学習指導要領に基づいています。

現行の指導要領で大きく変わったことの一つに、「学習評価」が挙げられます。各教科の観点別学価が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になりました。このうちの「主体的に学習に取り組む態度」には、『子供たちが学びの見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという、主体的な学びの過程の実現に向かっていかどうか』という視点も含まれています。つまり、「自らの学習を振り返って、次につなげる」ことが、生徒のみなさんには求められているということです。

さて、前置きが長くなりましたが、「前期中間テスト」に戻しましょう。中間テストの前には各教科の出題範囲が示され、家庭学習などの計画を立て、取り組み、そして中間テスト当日です。翌週には各教科で答案用紙が返されました。一番気になることは「何点取れたか」「5教科合計で何点になったか」ですよね。そして、間違えた問題をもう一度解いてみたり、教科書で確認したりしながら「見直し」もしました。

回答欄の「イ」は間違いだったので、模範解答を見て(または誰かに正解を聞いて)、赤ペンで「ウ」と書き直した。…この見直しは意味があるのでしょうか? なぜイではなくウなのかが理解できていれば意味がありますね。しかし、赤ペンで正解を書けば、それで見直したと思っている人はいませんか?

そして、中間テストに向けた自分の学習についても振り返り、改善すべきことを改善させることも必要です。取り組み期間中の取り組み方はどうだったか。時間の設定はどうか、内容はどうだったか。さらに、ここに至るまでの普段の授業姿勢はどうだったか。毎日の家庭学習はどうだったか。こういった自分の学習を常に振り返り、自分にとってよりよい学び方を追求し、改善し、身に付けていくことが求められています。

知識を増やすことはもちろん大切です。しかし、あらゆる知識がインターネット上にあり、いつでも調べられる今、知識や身に付けたものの見方・考え方をどう活用するのか。そして、正解のない課題(例えば自分なりの学習のしかた)を、どう解決するのが問われる時代です。

あと3週間で夏休み。自分をよりたくましく成長させるためにも、どんな夏休みにするのか、目標や願いを掲げることが大切です。その中心が学習なのか、研究・課題なのか、体力づくりなのか…は人それぞれ。夏休みだからこそ体験、実行できることに取り組みたい人もいるでしょう。

目標(志)を掲げて努力し続けること(または楽しむこと)。この姿勢を貫きましょう。